

## 15 . 注射指示書による注射指示の一元化について

琉球大学医学部附属病院 副看護部長 津嘉山光代

### 【実践概要】

当院の病院医療情報システムは平成14年に更新され、注射オーダーに加え実施入力が始まりました。しかし、当初の運用上の手書き指示書（看護指示録）の併用が、今なお継続され全科が注射指示を一元化するに至っていない。注射指示オーダーにより出力される注射指示書と看護指示録による指示という二重の指示書の存在は、医師、看護師ともに業務量の増加や確認業務の繁雑を招き指示伝達や安全面で課題となっている。リスクの高い状況の解決に向けてマネジメントと関連部署への問題提起・提案をしていくことは管理部門の重要な役割である。平成20年には医療情報システムが更新されることから、今回指示の一元化に向けて安全で効率的な運用ができるための具体的方法について検討したので報告する。

### 【実行計画】

#### アクションプランの目標

- 1) 注射指示書と看護指示録の二重指示を廃止し、注射指示書に一元化していくことを推進していくための運用方法を医療安全対策委員会に提案し、院内の統一事項とする。
- 2) 適切な入力方法を周知させるため薬剤部と共働してマニュアル案を作成する。

#### 方法、スケジュール：

- 1) アンケート調査により各部署の指示出しの状況把握および問題の抽出
- 2) 看護師長会議で討議事項として問題の整理と対策を検討
- 3) 他施設見学（最近電子カルテ導入した県立病院）
- 4) 入力方法のマニュアル作成
- 5) 医療安全管理委員会への提案

### 【結果及びまとめ】

アンケートの結果より、看護指示録と注射指示書の二重指示をしている部署は、定期処方指示15部署中6部署、臨時処方指示で9部署であった。問題として①看護指示録と注射指示書の二重指示では、2つの指示の内容確認や内容の不一致時の確認に時間を要する。②看護指示録のみ記載し、注射指示書への記載漏れや入力漏れがある。③研修医やローテーターの入力方法が適切に行われていないことがあり、注射指示書や薬剤が重複交付され業務の煩雑化をまねいている。④医師・看護師の意識として入力のみに対する不安がある。等がわかった。その解決策として「注射指示書が主たる指示書であることを院内統一できるように明示すること」と、「適切な入力方法を周知する必要性」が看護師長会議で決議された。薬剤部との協力を得て入力方法や注射の指示から実施までのシステムの流れを、これまで試行錯誤的に入力していた研修医等にも活用しやすいものになると考え、図式化や手順書をわかりやすく作成した。また、注射指示書がメインとなる指示として院内統一事項とすることを医療安全管理委員会に提案し了承を得た。実践方法についてもリスクマネージャー連絡会議で了承され、全診療科で注射指示書をもとに指示受けと実施を行うことが共通認識された。看護師長会で討議後一元化に向けての取組みを始めた部署が2箇所あり、病棟師長や病棟の意識の

高まりがみられた。

平成20年度のシステム更新に向けて、注射オーダー入力のみで指示ができるよう現時点から環境を整えることでスムーズな移行に繋がることから今回の取り組みは有意義であった。今後、全科の実践状況をフォローアップしていく。